

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立鬼塚小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に学習に取り組んだり、人と関わったりできる環境づくりに学校全体で取り組む中で、学力の向上や心の教育に一定の成果を得ることができた。特に校内研究で取り組んでいる道徳教育については、前年度までの積み重ねに、他教科との関連を視点にもつことでより深い学びにつなげることができた。 ・休み時間に外遊びしている児童が目標値を下回っていることは課題だと感じている。体育的行事の充実や休み時間の外遊びの奨励など具体的な手立てを通して、体力向上を目指したい。 ・教職員の働き方改革については、事務作業の削減や、ICTを活用した授業の効率化、教育支援体制の充実等に積極的に取り組み、労働時間の短縮と業務の効率化を図っていく。
------------------	---

2 学校教育目標	『笑顔いっぱいの学校づくり』 ～温かい心で共に高め合い、主体的に取り組む子どもの育成を目指して～
----------	---

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 考える力：「唐津の学びスタイル」を元に主体的対話的で深い学びの視点での授業改善を図る。 ② 心の力：家庭・地域と連携した体験活動や人権教育の充実を図ることで、自己肯定感を高める。 ③ 体の力：系統性を重視した意図的・計画的な健康教育と体育活動を行う。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・唐津の学びスタイルに沿った授業の実践 ・対話的な学びをもとにした基礎基本の定着	○教職員アンケート「唐津の学びスタイルで授業を行い、評価・改善しながら授業改善に努めている」と回答した教職員90%以上。 ○児童アンケート「学級の友達との対話活動で自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した児童90%以上	・全教科の授業で唐津の学びスタイルに沿った授業を展開する。 ・45分の授業の中で対話活動を取り入れ、基礎基本の定着につなげる。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	○道徳に関するアンケートにおいて①「命を大切にしている」②「まわりの人のことを思いやり、進んで親切にしている」③「差別をしないで、だれに対しても同じように接している」について、肯定的な回答をした児童85%以上 ○いじめ防止等について組織的に対応できていると回答した教員80%以上 ○アンケートで「学校が楽しい」と回答する児童90%以上 ●◎「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・人権教育(さくらカードや特別の教科道徳等)の全校的な取組の充実。 ・人権週間や集会(11月下旬)を設定し、学級や学年で人権学習に取り組む。 ・いじめアンケート等を通して児童の状況を把握し、いじめの早期発見や早期解決に取り組む。 ・生活指導協議会や児童理解研修会等で気になる児童の情報共有を行い組織として対応する。 ・友達、教員、保護者、地域の方からの桜カードを紹介、掲示することで、自分や友達のよさを実感させる。(教員が書いた桜カードを各クラスで紹介する。 ・地域との交流や体験活動、学校行事等でサッカーカード(具体的な目標設定・活動後の振り返りカード)を活用する。	A A A	・①「命を大切にしている」95.5%②「まわりの人のことを思いやり、進んで親切にしている」90.4%③「差別をしないで、だれに対しても同じように接している」85.8%と肯定的な回答をした児童がどの項目も85%をこえた。 いじめ防止について組織的に対応できていると回答した教員は84%、「学校が楽しい」と回答した児童は91%となった。いじめ防止については継続的な指導や見守りが必要であるが、学校全体で取り組むことができた。 ・掲示板が桜カードでいっぱいになり、自分や友達の一年間の頑張りを肯定的に捉えることができた。前期に比べ、教員からの桜カードも増やすことができた。 ・アンケート結果「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」89%、「将来の夢や目標を持っている」89%だった。	A A A	・「桜カード」の取り組みがすばらしい。今年度は、児童が給食の時間に紹介しているが、紹介する児童の給食の時間の確保にも手だての必要性を感じる。 ・子どもたちが安心して登校できるような学校づくりを今後も目指してほしい。 ・児童のやる気を引き出すような手だてを今後も継続してほしい。今年度の青少協の取り組み(茶道教室など)に参加している児童のやる気や主体性に感心した。	人権・同和教育担当 生徒指導担当 道徳教育推進教員 各学年主任
●健康・体づくり	①「望ましい生活習慣の形成」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ③「健康を考えて行動できる能力の育成」	①週に2回以上体を動かしている児童80%以上 ②「健康に良い食事をしている」児童85%以上 ③「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童80%以上	・「休み時間に外に出て体を動かして遊ぼう」と給食体育委員会の児童に呼びかけさせる。 ・全校や学年単位で遊ぶ時間を設定し実施する。 ・給食週間を設定し、食事の大切さや健康に過ごすためのどのような食事がいいか考える時間をとる。 ・ほげんだよりで保健学習と関連付けた内容を取り上げる。 ・熱中症、感染症の予防をパワーポイント等の教材を用いて指導する。	A	・週に2回以上体を動かしている児童は全体の94.7%という高い結果を得た。校内でも児童が進んで体を動かそうとするイベントを設定し、体を動かすことの楽しさを感じさせた。 ・「健康に良い食事をしている」児童92.8%。「健康は大切だと感じている」児童98%、「保健で学習したことを自分の生活に活かしている」児童は85%と高い回答を得られた。毎月のほげんだよりや給食週間、日々の季節に合わせた指導によるものだと考える。来年度も続けていきたい。	A	・週に2回以上運動する児童の割合が高くなっている。今年度、新たに取り組んでいる持久走大会やマラソンの取り組みの成果が出ている。健康面について、保健室の来室状況や給食の残菜量なども注視して指導の充実を図ってほしい。	保健部長 養護教諭 食育担当 安全教育担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・伝達事項は文面やグループウェアで伝え、協議する内容を見直すことで、職員会議や職員連絡会の回数、所要時間を絞り、学級事務等の時間を確保したり、年休を取り易くしたりする。	A	・グループウェアの活用を進め、職員会議や職員連絡会の協議や伝達の内容を精選することによって、時間外勤務時間を昨年同時期と比べて8.2%削減することができた。	B	・時間外勤務時間が昨年度と比較して8.2%削減しているが、夜遅くまで職員室の電気がついていることがある。今後も業務改善をさらに進めてほしい。	教頭
●特別支援教育の充実	●職員の特別支援教育に対する専門性の向上	●アンケートで、研修の内容が児童に対する具体的な支援につながったと回答した教員80%以上	・職員対象の研修を行い、児童理解と指導力の向上を図る。 ・定期的(1月に1回程度)にケース会議を開き、より適切な指導に取り組んでいく。	A	・職員対象の「特別支援教育に関するアンケート」では、児童や保護者への対応に困った時でも、周りの職員に相談しながら進めることができた職員が95%であった。 ・定期的なケース会議を通して、複数の職員で見取り、その後の対応について協議をすることで、より細やかな児童の支援につなげることができた。	A	・特別支援学級の児童や通常学級の中の特別な配慮を要する児童への支援体制の充実を今後も図ってほしい。	特別支援コーディネーター

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				○ICT利活用教育の推進	○1人1台端末を活用した個別最適な学び、協働的な学びの推進	○アンケートで「状況に応じて一人一台端末を活用できた」と回答した児童と教師、それぞれ80%以上。	・Teamsや校内研修等により、一人一台端末の活用法を共有化し、唐津市情報活用能力系統表をもとに活用を推進する。	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究で取り組んでいる道徳教育については、これまでの積み重ねに、昨年度から取り組んでいる他教科との関連を視点にもつ実践を重ねることで研究を深めることができた。 ・「健康・体づくり」について、校時を見直し、児童が運動に親しむような機会を設定することで一定の成果を得ることができた。今後も体育的行事の充実や休み時間の外遊びの奨励など具体的な手立てを通して、さらなる体力向上を目指したい。 ・教職員の働き方改革については、事務作業の削減や、ICTを活用した授業の効率化、教育支援体制の充実等に積極的に取り組み、さらなる労働時間の短縮と業務の効率化を図っていく。
--------------------	---